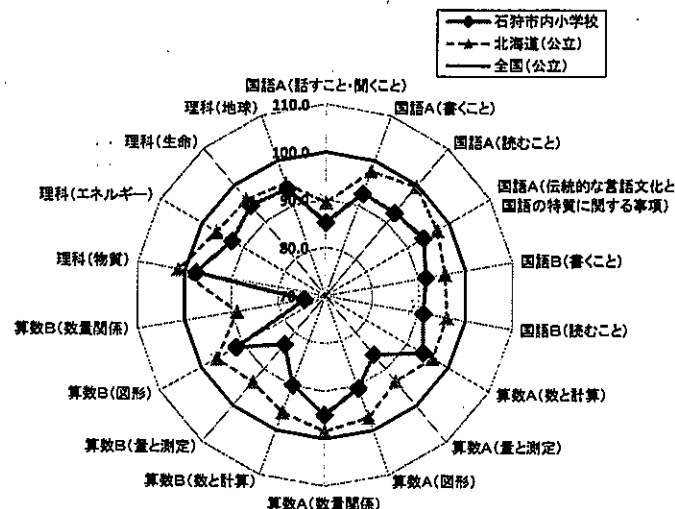


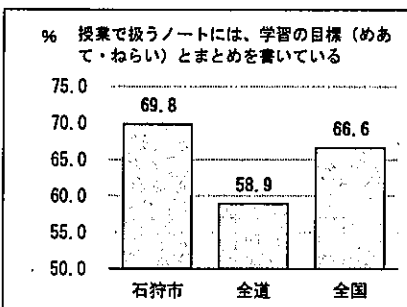
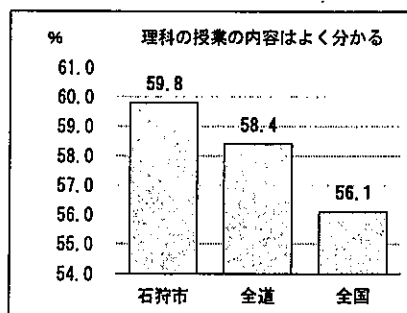
■石狩市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:13、児童数:551名)

【教科全体の状況】

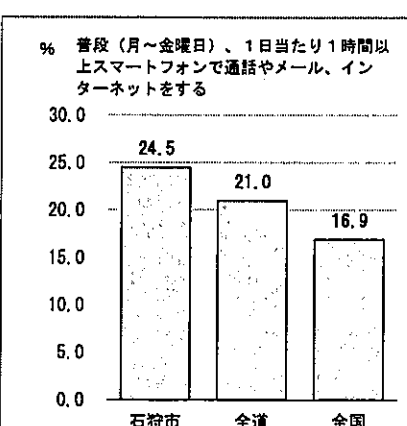
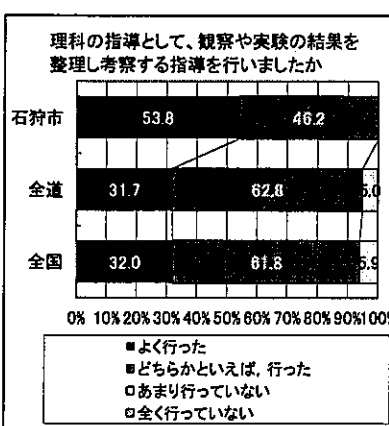
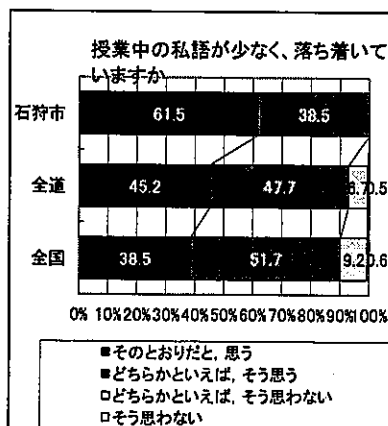
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	- 理科では、「生命」、「地球」で全道とほぼ同様になっている。「自然現象についての知識・理解」で全道及び全道を上回っている。 - 国語Aでは「話すこと・聞くこと」、算数A・Bでは「量と測定」、算数Bでは「数量関係」に課題が残った。	各学校で、理科の指導として、補完的な学習の指導や観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の授業内容がよく分かる児童が多くなり、他教科と比較して理科の学習内容の定着につながっていると考えられる。
児童質問紙	- 理科の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が、全道及び全道を上回っている。 - 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると回答した児童の割合が、全道及び全道を上回っている。	各学校で、板書計画やノート指導が校内の共通した取組となっており、書画カメラなどのICT機器が日常的に授業の中で活用され、教材提示や児童の発表に生かされたことにより、児童が落ち着いて学習に取り組んでいると考えられる。
学校質問紙	- 授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答した学校の割合が、全道及び全道を上回っている。 - 理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を「よく行った」と回答した学校の割合が、全道及び全道を上回っている。	携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをする時間が長く、学習時間が比較的少ないと考えられる。

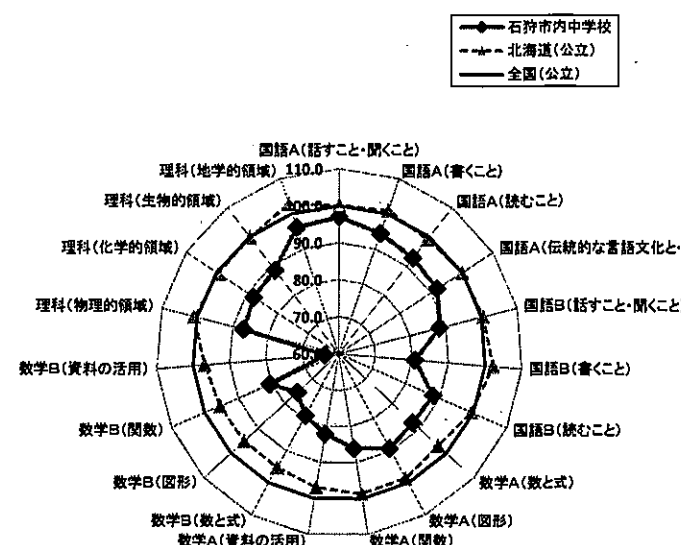
【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校に「学校力向上に関する総合実践事業」の成果を普及
- ◎ 学習規律の共通化や家庭学習の相互理解など中学校区を基本とした幼稚園、保育園、小学校、中学校の連携教育を推進
- ◎ 習熟度別少人数指導、グループ学習、小学校教科担任制など指導体制を工夫
- ◎ 授業時間以外での個別指導、長期休業中、週休日などを活用した補完的な学習を推進

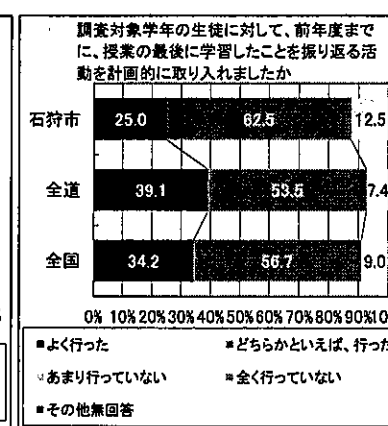
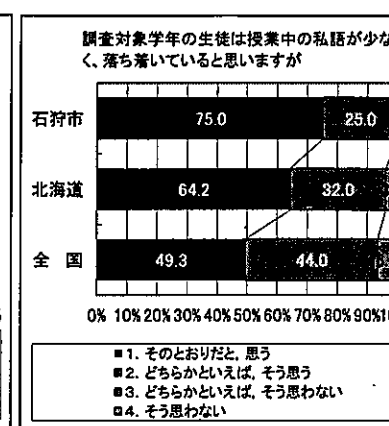
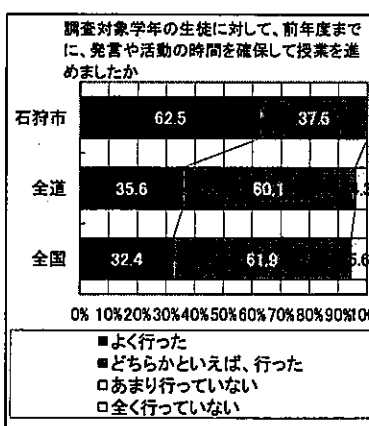
■石狩市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8、生徒数:540名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	- 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で全道及び全道とほぼ同様になっている。 - 数学Bでは、「資料活用」、「図形」で全道を下回っており、課題が残った。	各学校で、話し方や聞き方の指導を行ったことにより、自分の考えや意見を発表することが得意と感じる生徒が多くなり、「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な知識・技能の定着につながっていると考えられる。
生徒質問紙	- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と回答した生徒の割合が、全道及び全道を上回っている。 - 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くと回答した生徒の割合が、全道及び全道を上回っている。	「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が全道及び全道を下回っていることから、「課題」と「まとめ」を授業過程に位置付ける授業改善を一層進める必要があると考えられる。
学校質問紙	- 発言や活動の時間を確保して授業を「よく行った」と回答した学校の割合が全道及び全道を上回っている。 - 授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答した学校の割合が、全道及び全道を上回っている。	

- ◎ 市内全校に「学校力向上に関する総合実践事業」の成果を普及
- ◎ 学習規律の共通化や家庭学習の相互理解など中学校区を基本とした幼稚園、保育園、小学校、中学校の連携教育を推進
- ◎ 習熟度別少人数指導、グループ学習、アクティブラーニングを取り入れた指導改善
- ◎ 授業時間以外での個別指導、長期休業中、週休日などを活用した補完的な学習を推進

【生徒質問紙調査】

